

びっくりぽんな量販店

母親は齢80を越え、最近は「に」の付く薬の効かない病を疑わせる言動が耳や目につく。直近では、スーパーの「サッカー台（レジ後の商品を詰める台）」にあるロール型のポリ袋を大量に貪り、ご満悦・・・次のスーパーのレジでお財布がないことに気づき大慌て。筆者は何かの「勘」が働き、事前のスーパーに直ぐに駆け込み、結果としては事なきを得た。いやはや。この世知辛い時代に見つかり預かって頂いたことに感謝。この世も捨てたものではないと合掌。それ以来、母親のお財布は当方で預かることとした。

その母親が「暑くなってきたから、よそ行きのサンダルを買いに行きたい」と申し出があった。今母親が使用しているサンダルは、小柄な母親にとっては、まるで幼子が父親の大きなサンダルを履いているような「成人向け」であった。足下のおぼつかない昨今、当然即変えなきゃと思ったし、今まで気づかず、すまないも思った。

そこで、週1回の買物の日に某靴量販店に出かけた。果たして、なんとか適当なサンダルを見つけた。母親はもっとおしゃれな「あれ」が欲しそうだったが、ヒールがあったので強引に「これ」を押した。なぜなら、昨年左義長におしゃれなブーツを履いて行き、こけて、骨折で入院3カ月となったからである。当然、「これ」に従ってもらおう。

レジで「今日は55歳以上は10%OFFです」と告げられた。「この人の買物なんですが」と母親を引き寄せた。誰が見てもお世辞にも55歳未満には見えない老婆に対し、「あの一免許証はお持ちですか」とお役所的な応対。「えっ？そんなのあるわけないだろう」と語気を強めて言ったが、「それでは、保険証はお持ちでしょうか」と丁寧に返してきた。「えーっ。そんなもの持ってるはずはない・・・」まさかと思い母親に尋ねると、持っていた手提げ袋に通院のために常備している「保険証」があった。店員は保険証をパッと見て中身まで確認せずに、幸か不幸か意に反して、10%OFFに該当し、適用された。「あんたら役所か、何で身分証明書の提示を求めるのか。見ればわかるだろう」と問い詰めると鰐鰐（にべ）も無く「規則ですから」とこちらの神経を逆なでる返答。「大変不快であるし、改善したらどうなのか、あんたらお客様商売だろう」と尋ねると「申し訳ございません」と10%OFFに謝るとも不思議で慇懃にして××の対応であった。

家路への道中、車中で母親が「びっくりぽんの店やね」と呟いた。「びっくりぽん」に少し和んだ。が同時に「びっくりぽん」とは何ぞや、もしやとうとう・・・夕飯の時に思い出し「さっきの、”びっくりぽん”って何のことや」の問いに「あんた、知らんがや。テレビの朝のドラマの連続の・・・」なんとなく理解できた。食後「びっくりぽん」で検索してみた。まさに「びっくりぽん」の自分の無知であった。えっ俺が・・・。